



さすがに秋の様子を感じられます。少し、服装が変わってきているような気がします

### 一周まわって「ちゃんととききましょう」がやっぱり大切

2学期の学習が本格化しています。各学級で、個性的な学びが展開され、豊かな知識が創造されています。それは、とても感動的です。

ある学級の道徳の時間にちょっと聞き耳を。教材資料の「ぼく」は、自転車教室になかなか身が入りません。こんな簡単なことを…と思いながら参加していたところ、みんなの前で自転車に乗ることに。もちろん、運動神経のいい「ぼく」はスイスイ。どんな気持ちかな？

「気持ちいいと思っていた」

「風が吹いて気持ちがよかったのかなあ。スイスイ進むから」

「それもあと思うんだけど、なんかみんなから見られてうれしいっていうか」

「そう、みんなから褒められてうれしい、楽しいって感じです」

そうなんだな。「ぼく」はみんなから見られて、褒められて、ちょっと調子に乗っちゃったんだな。友達と話すことで、だんだんわかってくる「ぼく」の心の中の本当の気持ち。

ただこの後、調子に乗った「ぼく」は自転車でとんでもないことに。そして、この事件には「ぼく」のこの時の心情が大きくかかわっていたのです。

.....

友達との対話は、表面からは見えないものを少しずつ見えるようにしてくれます。だから、独力での学習には誤解や誤読が頻繁に起きます。厄介なのは、この誤解や誤読が自分ではそう感じないということ。なぜか、少し掘り下げてみたいと思います。学習とは、友達や出来事、そして自分自身との対話によって、今までなかった関係性を自ら見出す（創り出す）とともに、その関係性を微調整したり、大きく修正したりすることだといわれています。ちょっと実験を。ゆっくりじっくり一行ずつ考えながら読んでいただければ幸いです。

出来事

1, 1

1, 1, 2

1, 1, 2, 3

1, 1, 2, 3, 5

1, 1, 2, 3, 5, 8

と並べたら次は何ですか？1？いや2です。

の次は？2？いや3です。

の次は？4？いや5ですね。

の次は？なんだ？はい、8ですよ。足していますもんね。

の次は、もう簡単。13だ！あ～気持ちいい。

友達との対話

数学界では有名なフィボナッチ数列という数の並びです。前2つの数を足した数が次項に、という関係性は、最初は少々見えにくいものです。しかし、並びをじっくり見直したり（出来事との対話）、友達の話の話を耳を傾けたり（友達との対話）しながら、目の前の出来事と今までの自分の経験と照らし合わせてみる（自分自身との対話）ことで、わかる。最初は見えなかった関係が、友達や出来事、そして自分自身との対話によって、少しずつ見えてくる。その見え方で再度数の並びを見つめてみると、また新しいものが見えてくる。

翻って、最初に登場した子どもたちの学びも、友達との対話により、資料に書かれた出来事の意味が、より「ぼく」の心情の深いところへたどり着いている。すばらしい。

表現（発表や発言）が大切だといわれる昨今、もちろん表現は大切です。ただ、再度「ちゃんとときくこと」の大切さを、私は子どもたちの授業の様子から学びました。